

令和2年度 地黄湿地 保全活動報告

令和3年4月

地黄湿地再生保全検討会議

令和2年度の事業実績概要

令和2年度はコロナの影響を受けて活動の縮小が余儀なくされた。しかし、ハッチョウトンボが14年ぶりに確認され、トキソウやサギソウ等の重要な植物の良好な生育が確認されるなど、過年度からの保全活動の効果がみられた。

湿地の再生保全に向けて、乾燥立地の掘削や湿地の拡大、周辺森林の整備等については課題を残しているが、下池下流部の水路における土嚢積堰の補修・追加を実施した。

1 水環境整備・森林整備等

(1) 湿地の水環境の改善

- ① 下池の下流部について、定例活動で灌木類の除去を計画していたが、コロナの影響を受けて12～2月は活動縮小または中止となったため実施しなかった。
- ② 湿地の下流部に形成された水路については、過年度設置の土嚢堰を補修、追加する工事を行った。その他の水路への土嚢積は活動縮小等のため実施しなかった。

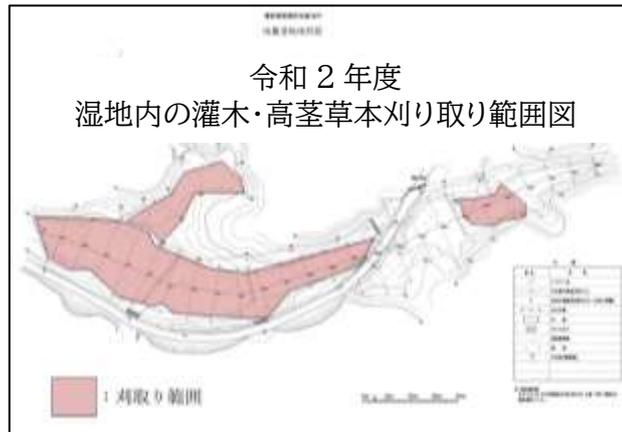


下池下流部の土嚢堰の補修、追加工事

- ③ 下池全体の湿地内の草本、低木についての刈り払い、刈り取ったものの撤去を行った。
- ④ 最下流部の浸食水路について専門家へのヒアリングを行なったが、湿地への影響、対策の効果、工法や優先度について十分な情報が得られていないので、ヒアリングを追加して検討を行うものとした。

(2) 光環境の改善

上池東側について、湿地にかかる灌木を伐採し、湿地から林縁部を広く整備した。池に張り出している枝がある木はモリアオガエル産卵のため残存させた。

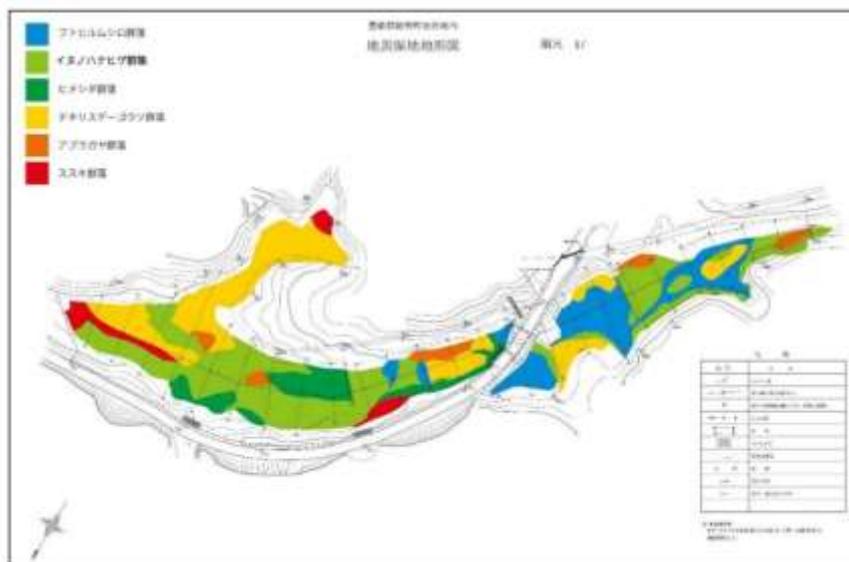


令和2年度 湿地内の灌木・高茎草本刈り取り範囲図

2 調査・モニタリング

(1) 植生調査

- ・調査日：令和2年10月7日
- ・調査体制：現地調査は武田義明名誉教授（神戸大学）指導のもとで行った。
- ・調査結果概要：
 - ・植生図を作成
 - ・1m×1mのコドラートを植生タイプごとに2～9地点、計20地点設定
 - ・フトヒルムシロ群落、イヌノハナヒゲ群落、ヒメシダ群落、テキリスゲ-ゴウソ群落、アブラガヤ群落、ススキ群落に区分した。



地黄湿地植生図

(2) 植物調査

サギソウの開花が多く確認され、令和2年8月8日に開花数のカウントと分布状況の記録を行った。合計455個体が確認された。

(3) 動物調査

- ・調査日：6月21日、8月9日、10月21日
- ・調査体制：平井規央教授および生命科学科環境動物学研究グループ（大阪府立大学）への委託
- ・調査結果概要：ハッチョウトンボをはじめ、アキアカネ、ミルンヤンマなども再発見された。一方で、ウシガエルは依然として少ないながら確認が続いており、在来種への影響が心配される。平成10年の調査で比較的多数いたものの、最近確認されていない種としては、キイトンボ、クロイトンボ、マユタテアカネ、ミズスマシ、タイコウチなどがあげられる。

(4) 環境調査（水質調査等）

コロナ禍による定例活動縮小のため、水質や水温などの物理的項目の測定は行わなかった。

(5) 悪影響をもたらす外部要因への対策

捕獲網によるウシガエルの捕獲はなく、卵塊や幼体は未発見ではあるが、鳴き声は聞かれている。今後も冬季を除いた時期に重点的に捕殺と生息状況の確認が必要である。

3 普及・啓発

① サギソウ観察会

コロナ対策として参加人数を限定して令和2年7月19日に開催した。サギソウの開花前となってしまったが、ヤマドリゼンマイやモリアオガエル等を観察した。

② テレビ取材

NHKの「ニュースほっと関西」で、令和2年8月28日に「地黄湿地でトンボを見つける」現地ロケ番組が放映され、ハッチョウトンボ復活などが紹介された。

③ 能勢町広報誌

「広報のせ9月号」に「地黄湿地に待望のハッチョウトンボが戻ってきました」と題した記事と、保全活動の案内が掲載された。

④ 動画作成

協会フェイスブックに「地黄湿地の生き物」スライドショーを公開した。
ナショナルトラスト全国大会（日本ナショナルトラスト協会主催、令和3年2月20日

オンライン開催)に、他の活動地とあわせて地黄湿地の活動紹介動画(15分)を提供した。

以上、協会フェイスブックで視聴できる。

(<https://www.facebook.com/osakagreentrust/>) →



⑤ リーフレットの作成

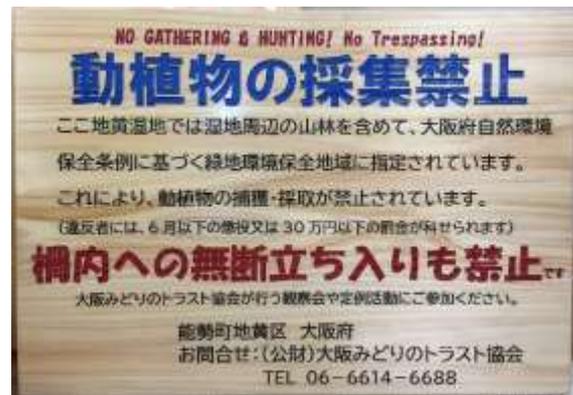
地黄湿地の自然と保全再生の取組みをまとめたリーフレットを作成し、関係者への配布と能勢電鉄駅への配架を行った。

⑥ 地元高校の環境学習協力

大阪府立豊中高等学校能勢分校の2年生向けに6回と、1年生向けに1回の現地授業を行った。(巻末資料2参照)

⑦ 「生物採取禁止」の看板の設置

2枚の看板を作成した。



「生物採取禁止」の看板

4 定例活動

一昨年より、森人塾修了生や能勢みどりすとクラブのメンバーなどが参画し、地黄湿地保全活動グループ(地黄の森FANクラブ)の定例活動が定着した。4月~10月は第4土曜日、11月~3月は、第3水曜および第4土曜の月2回の定例活動が行われる予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月5月、12月~2月の活動が中止となり、計11回、のべ71人の参加となった。(令和元年度は計16回、のべ115人)

5 巡回パトロール

地元地黄区により年間25回の巡回パトロールを実施した。顕著な異常報告はなかった。

地黄区より、来訪者の人数などは巡回ではわからないので、利用状況の把握と無断立ち入りの抑止効果を目的とした防犯カメラの設置の提案があった。

6 町指定天然記念物に向けた取り組み

令和3年2月6日、地黄区区長、役員交代後の役員会において、天然記念物の申請について協議したが、結論に至らず保留となった。

7 その他

地黄湿地保全再生検討会議を6月と11月の2回開催した。